

就職・採用活動におけるデジタル名刺アプリの企画

2024_3_13_(水)

Auto in どあー

(H チーム)

1. 趣旨

本チームは「就活生と企業の人をつなぐ名刺交換アプリ」をテーマに設定し、キャリアフェアや企業説明会などの参加者が使えるデジタル名刺アプリを企画した。就職・採用活動や事業の現場で欠かせない段取りである名刺交換を DX（デジタル変革）し、従来よりもスマートな人間関係の構築や発展を目指した。

本アプリは大勢の就職活動中の学生が参加する場での使用を想定し、シンプルで直感的なユーザー体験と既存のアプリとは異なる事業ドメインの選定を重視した。

2. 実態調査

紙の名刺は印刷が必要で携帯時に枚数が不足するリスクが存在する。デジタルデータとして管理する場合は取り込んで整理する手間も発生する。デジタル名刺であれば印刷不要で常にデータとして持ち歩き、いつでも情報を参照できる。

名刺管理サービス大手のサンサンが 2023 年 9 月に発表した実態調査報告によると、各年代別に「今後使用したい名刺」の割合のうち「紙とデジタルの名刺の併用」と「デジタル名刺」の割合が 20 代と 30 代で高いという結果が報告された。今後徐々にデジタル名刺を好む層が増加すると見られる。（引用：https://jp.corp-sansan.com/news/2023/0922_2.html）

3. 要件定義

イベントに参加した就職活動中の学生と企業の採用担当者がアプリを立ち上げて、スマートフォンをお互いの方向におおよそ水平の状態にして近づければ、お互いのデジタル名刺を交換出来る。

名刺はテンプレートを使用するか、オリジナルの名刺をアップロードできる。就活生はプロフィールからスキルや志望職種、ホームページ（ポートフォリオ）などの情報を保存して使用する。名刺をお気に入りに登録する事も出来る。

本アプリの特徴は、就活生が自らの状況をリアルタイムで伝えられる点である。企業はその就活生は内定が決まったか、有するスキルを参考に就活生にタグを付与し、フィルター分けが出来る。

名刺交換による人間関係の構築や発展を核として、企業からのお知らせの配信やニュースの掲載など就職・採用活動に便利な機能も盛り込んだ。

アプリを事業として展開するにあたり、本チームはアプリの画面上に企業の広告を掲載して、広告収入で維持管理費を回収するビジネスモデルを採用した。

4. 課題

デジタル名刺の課題は、環境によって使用できない場合が存在する点である。システム上の都合や社内の規則によって、承認されていないアプリの使用が禁止されている会社も存在する。またコロナ禍を経て DX が行われているが、デジタル名刺に慣れていない人も多いので、アプローチの仕方を考慮する必要がある。

5. まとめ

日本社会はコロナ禍を経て DX を推進しており、デジタル名刺の需要は年々増加傾向にある。すぐに紙の名刺が使われなくなるとは考えにくく、デジタル名刺が普及すれば紙の名刺と併用する人が増加すると予想される。